

- 1) 渡辺 護, 荒川 良, 竹部幸子, シャフルディン, 上村 清, 小橋恭一: オオモリハマダラカの各種殺虫剤に対する感受性の相違. 第42回衛生動物学会, 1990, 3, 北九州.
- 2) Namba T., Hattori M., Akao T., and Kobashi K.: Metabolism of the main constituents of Rhubarb by human intestinal bacteria. 1st Intl. Symp. on Rhubarb, 1990, 4, 承德, 中国.
- 3) 渡辺 護, 竹部幸子, 小橋恭一: コガタアカイエカの有機リン剤抵抗性とパラオクソン水解活性. 日本薬学会北陸支部第80回例会, 1990, 6, 富山.
- 4) 青山宗夫, 赤尾光昭, 金岡又雄, 森 佳洋, 小橋恭一: ラット肝臓によるグリチルレチン酸代謝. V. 3-エピグリチルレチン酸の3-ケトグリチルレチン酸への変換. 日本薬学会第110年会, 1990, 8, 札幌.
- 5) 赤尾光昭, 小橋恭一: グリシンの血中エタノール低下作用. 日本薬学会第110年会, 1990, 8, 札幌.
- 6) 古泉素明, 門田重利, 菊池 徹, 小橋恭一: タンニン類の酵素的硫酸化. 日本薬学会第110年会, 1990, 8, 札幌.
- 7) 川田幸雄, 服部征雄, 難波恒雄, 小橋恭一: 腸内細菌による和漢薬成分の代謝 (第21報) ヒト腸内細菌による geniposide, gardenoside から monoterpene alkaloid への変換について. 日本薬学会第110年会, 1990, 8, 札幌.
- 8) 赤尾光昭, 赤尾泰子, 服部征雄, 難波恒雄, 小橋恭一: グリチルレチン酸およびその関連化合物による 3- α -ヒドロキシデヒドロゲナーゼの阻害. 第7回和漢医薬学会, 1990, 8, 富山.
- 9) 車 慶明, 服部征雄, 難波恒雄, 赤尾光昭, 小橋恭一, 津田喜典: 腸内細菌による和漢薬成分の代謝 (第22報) *Eubacterium* sp. における Barbaloin 代謝酵素の誘導. 第7回和漢医薬学会, 1990, 8, 富山.
- 10) 金 東鉉, 小橋恭一: ヒト腸内菌 *Eubacterium* A-44 新硫酸転移酵素の反応速度論. 第63回日本生化学会, 1990, 9, 大阪.
- 11) 赤尾光昭, 青山宗夫, 赤尾泰子, 今井嘉郎, 今岡 進, 船江良彦, 小橋恭一: ラット肝臓によるグリチルレチン酸代謝—シトクローム P-450 による 22 α 水酸化. 第63回日本生化学会, 1990, 9, 大阪.
- 12) 酒井立夫, 亀沢真也, 小橋恭一: 生薬成分によるアフラトキシン産生菌の成長と毒素産生阻害. 第16回環境汚染物質とそのトキシコロジーシンポ

ジウム. 1990, 11, 名古屋.

◆ その他

- 1) 赤尾光昭, 小橋恭一: 腸内菌によるゲニポシドの代謝. 乳酸菌研究に関する報告書 [平成元年度]. 226-232, 1990.

衛生・生物化学(2)

教授 中川 秀夫
助教授 三井 健一郎

◆ 原 著

- 1) Nakagawa H., Hirata M., Hoshino K., Sakata K., and Hatakeyama S.: Purification of an active gelatinase from collagen fiber fraction of granulation tissue in rats. *J. Biochem.* **108**: 494-498, 1990.
- 2) Watanabe K., Kinoshita S., and Nakagawa H.: Gelatinase secretion by glomerular epithelial cells. *Nephron* **56**: 405-409, 1990.
- 3) Watanabe K., and Nakagawa H.: Cytokines enhance the production of a chemotactic factor for polymorphonuclear leukocytes by rat renal glomerular epithelioid cells. *Nephron* **54**: 169-175, 1990.
- 4) Ohno-Iwashita Y., Iwamoto M., Ando S., Mitsui K. and Iwashita S.: A modified θ -toxin produced by limited proteolysis and methylation; a probe for the functional study of membrane cholesterol. *Biochim. Biophys. Acta* **1023**: 441-448, 1990.

◆ 総 説

- 1) 中川秀夫: IL-8 ファミリーと炎症. 最新医学 **45**: 2214-2224, 1990.

◆学会報告

- 1) 中川秀夫, 平田道則, 坂田和彦, 畠山伸二, 出淵早己: 炎症組織のゼラチナーゼ——精製およびコラーゲン分解における役割. 第37回コラーゲン研究会, 1990, 3, 別府.
- 2) 三田村真理, 宮井久人, 長田由美子, 中川秀夫: システインプロテアーゼインヒビター(T-キニンノーゲン)の炎症組織線維芽細胞活性化作用. 第11回日本炎症学会, 1990, 7, 東京.
- 3) 池末厚俊, 宮井久人, 中川秀夫: 炎症組織が産生する好中球走化性因子の精製(第1報). 第11回日本炎症学会, 1990, 7, 東京.
- 4) 畠山伸二, 宮井久人, 池末厚俊, 中川秀夫: ヒト線維芽細胞が産生する不活性型 IL-8 の活性化.

第11回日本炎症学会, 1990, 7, 東京.

- 5) 中川秀夫, 宮井久人, 池末厚俊, 畠山伸二, 深山勝義, 渡邊一義, 三田村真理: ヒト線維芽細胞が産生する *gro* gene ペプチドは好中球走化性因子である. 第11回日本炎症学会, 1990, 7, 東京.
- 6) 渡邊一義, 横川浩美, 中川秀夫, 小西清司, 藤岡基二, 鶴藤 丞: IL-8 family であるラット好中球走化性因子 CINC の活性部位について. 第11回日本炎症学会, 1990, 7, 東京.
- 7) 渡邊一義, 中川秀夫, 小西清司, 藤岡基二, 小泉富美朝, 倉茂洋一: IL-8 family のラット CINC の一次構造と in vivo におけるその作用について. 第11回日本炎症学会, 1990, 7, 東京.
- 8) 内山太郎, 伊東 晃, 森 陽, 池末厚俊, 中川秀夫: 培養妊娠子宮頸管における好中球走化性因子とインターロイキン-1 様因子の産生: 日本薬学会第110年会, 1990, 8, 札幌.
- 9) 深山勝義, 中川秀夫: 炎症滲出液の線維芽細胞増殖促進活性 (FGSA) の精製. 日本薬学会北陸支部第82回例会, 1990, 11, 金沢.
- 10) 畠山伸二, 宮井久人, 池末厚俊, 中川秀夫: ヒト線維芽細胞 (SF-TY 細胞株) が産生する IL-8 ファミリーの特徴. 日本薬学会北陸支部第82回例会, 1990, 11, 金沢.
- 11) 出淵早己, 平田道則, 中川秀夫: サイトカイン刺激によって炎症組織が産生する活性型ゼラチナーゼの精製. 第63回日本生化学会, 1990, 9, 大阪.
- 12) 三井健一郎: 修飾 θ 毒素の θ 毒素溶血におよぼす影響. 日本薬学会第110年会, 1990, 8, 札幌.
- 13) 岩下淑子, 岩本真知子, 安藤 進, 三井健一郎, 岩下新太郎: θ 毒素の結合能からみた細胞膜コレステロールの存在状態の不均一性——人工膜を用いた解析. 第63回日本生化学会, 1990, 9, 大阪.

衛生・生物化学(3)

教授 西 荒 介
助 教 授 岡 村 昭 治
助 手 黒 崎 文 也
助 手 守 田 雅 志

◆ 著 書

- 1) 西 荒介: ストレスを利用した二次代謝物質の生産. 「最新・植物細胞培養とファインケミカルズ」駒嶺 穆監修, 64-70, シーエムシー, 東京, 1990.
- 2) 西 荒介: 「植物バイオテクノロジー事典」駒嶺 穆他編, 26, 89-90, 113-117, 142-144, 朝倉書店, 東京, 1990.
- 3) 西 荒介: 組織培養. 「生薬学概論」難波恒雄編, 187-190, 南江堂, 東京, 1990.
- 4) 西 荒介: 成長・増殖と死滅. 「微生物学ハンドブック」柳田友道他編, 209-248, 丸善, 東京, 1990.

◆ 原 著

- 1) Morita M. and Nishi A.: Characterization of glycopeptides from *Phyisarum polycephalum* labeled with [³H] mannose or [³H] glucosamine. J. Gen. Appl. Microbiol. **35**: 413-427, 1989.
- 2) Kurosaki F., Tashiro N. and Nishi A.: Chitinase induction in carrot cell culture treated with various fungal components. Biochem. Int. **20**: 99-106, 1990.

◆ 総 説

- 1) 西 荒介: 植物細胞におけるストレス代謝産物の誘導生成. 植物細胞工学 **2**: 14-20, 1990.
- 2) 黒崎文也: 高等植物の防御反応と情報伝達機構. 遺伝 **44**: 45-49, 1990.

◆ 学会報告

- 1) 西 荒介: ニンジンのファイトアレキシン産生と膜情報伝達系, 日本農薬学会第15回大会, 1990, 3, 東京.
- 2) 時任康弘, 黒崎文也, 守田雅志, 西 荒介: ニンジン培養細胞の β -1, 3-glucanase, 日本植物生理学会1990年度会, 1990, 3, 東京.
- 3) 守田雅志, 西 荒介: 真正粘菌 *Phyisarum polycephalum* のスライム層に存在する N 型糖タンパク質について, 日本植物生理学会1990年度年会, 1990, 3, 東京.
- 4) 村田芳美, 守田雅志, 西 荒介: 真正粘菌